

ニッポン丸ツアー



江藤 ヤエ子

四月一日。旅の友・中田様と博多バスターミナルで落ち合い、昼食を食べてから、集客場に荷物を置き、十五時に港を離れる様子を見に行くと、波止場では見送りの人たちが手を振っていた。船上からも手を振ってしばしの別れを惜しむ。夕食は七時からだった。

二日は終日航海だった。放送で、

「イルカの群れがいる」

とあり、室を出て見に行く。イルカも船と伴走するのも疲れるのだろう、何時の間にか姿を消していた。

三日。八丈島に着いたのだが、海が荒れていて、船は接岸できず、戻ることになり、島の姿をカメラに収めた。飛行機で行けば上陸できたのと思うことだった。夜はウエルカムパーティーで、服装はインフォーマルである。スプリングコンサートもあった。桂竹丸師匠が落語を演じた。知覧の特攻おばさんの蛍の話だった。終了後、エレベーターで彼と一緒にになったので

「私は指宿から参加しています」

と話しかけると、彼は

「指宿では白水館に泊まりましたよ」

と笑顔が返ってきた。彼は鹿屋出身である。

四日。家島に上陸した。十二時に着いたので、一時から瀬戸内の味覚を楽しんだ。海鮮料理である。家島は播磨灘の沖合いに浮かぶ家島諸島の中の有人島である。複雑な海岸線に囲まれた島周辺は魚の格好の棲家で年中、



八丈島を背景にして（上陸できず残念）



尾道の千光寺

多くの魚介が揚がる。昼食後は迷路のように入り組んだ路地裏を散策した。

夜は、船員たちが演芸をした。「南京玉すだれ」を五名で演じたが、前列右側の男性は竹が思うように動かず、後ろの男性が竹を取り替え直していた。その失敗に客は大笑いした。

五日。尾道一日観光である。先ずは千光寺に行く。「さくらの名所百選」に選ばれている。映画資料館では、小津安二郎、新藤兼人など尾道ゆかりの作品が展示されていた。私は原節子等の写真を懐かしく眺めたが、中田さんは私より二十一歳若いので、

「知らない映画だ」

と話していた。私は現代の俳優たちが判らない。年齢の差だなと感じた。船に戻る。

夜は、サンクスパーティーだった。船員たちがダンスや踊りをして客を喜ばせた。歌手の女性もいてテレサテンの歌を聴かせた。

六日。今日は別れである。十時に中央埠頭に着いた。六階の客から下船するので、私たちは一番遅い組である。十一時過ぎに下船し、バスで博多駅に行く。中田さんは、

「私は五時のバスです」

と言つて、時間待ちは店をぶらつくつと去つて行つた。私は昼食の弁当を求めて、十二時過ぎの特急列車に乗つた。自由席は二号車だったので、そこに移動して弁当を食べた。鹿児島中央駅で指宿線に乗り換える。十四時十四分だった。十五時三十分指宿着。

雨が降り出していたが、タクシーで帰宅したので、濡れずにすんだ。帰宅後、両隣に土産を配つた。「四季のおのみち水道」である。自分にも記念品を購入したのに、どこで落としたのかカバンには入っていないかった。嗚呼残念と思う事だった。

(エッセイスト)